



2024年11月28日
第86号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第3号

11/26

「JR東労組横浜地本第29回定期大会」 発言に基づく申し入れ 交渉速報

目指すは「筋肉質な社員配置」 組合が求めるのは脂身だ!?

JR東労組横浜地本は7月7日に第29回定期大会を開催し、多くの代議員から、矢継ぎ早に実施される「変革2027」に基づいた会社施策と要員不足に起因する悲痛な職場実態に関する発言がされました。大会発言を踏まえ、労使で危機感の一致を図り、今後進められる様々な施策を担う社員が不安を解消し、「安全・健康・ゆとり」のある職場を実現するため9月25日に全11項目の申し入れを行いました。

11月26日に団体交渉が開催され、第1回交渉では第1項から第5項までの交渉を行いました。

第1回交渉の内容は、主に営業職場における教育の不十分性や3連続徹夜勤務や7連勤といった健康を阻害する実態、年休が取得できない現実、欠員状態が常態化しサービスが低下しているため要員不足の解消を求めて交渉を行ってきました。しかし・・・

組合

- ①(営業職場の教材である)ステーションバイブルの習熟度について×をつけづらいと聞いている。
- ②営業への異動者が休んでしまう現実がある。不安なまま立ちまわらせてはならない。
- ③年休が消化できない現実がある。
- ④一人何役とも言われるが、一人に求めすぎでは。
- ⑤駅の要員不足は一過性ではなく、常態化している認識。
- ⑥職場の業務が回っているという認識か。回している認識か。
- ⑦現場は要員が足りていないと感じている。会社の「働き手がない認識」と一致するのでは。
- ⑧ホーム立ち番も欠員のときがある。安全レベルの低下ではないか。

究極の安全の底辺!?

あぶらみ!?



会社

- ①一本立ちできる目安。不安を払拭のため必要なツール。理解して活用。自覚して付けるべきもの。
- ②何も備えずに行くのと、積み重ねた上で行く人では違いがある。拒否反応はあるだろうが自分事として捉えられる自覚があるかだ。いきなり100とはならない。
- ③年休は取れている。社員が必要に応じて申請するもの。年間5日以上は個人の事情。
- ④20年前と同じ土俵ではない。デジタルツールを使うと変わってくる。多能化していく。
- ⑤3連続徹夜勤務や7連続勤務は制度上問題ない。
- ⑥社員の疲労感がないとは言わない。要員の考えでは配置している。
- ⑦会社は筋肉質な体質として足りているという認識。組合の主張は脂身が欲しいという主張だ。
- ⑧安全面ではなく安心感ではないか。究極の安全の底辺は担保している。

私たちが求める「ゆとり」は 必要のない脂身ではない!

「乾いた雑巾を絞る」ような こんな働き方で良いのか!?
施策を担う社員の安全・健康・ゆとりある職場を実現させよう!

※団体交渉の詳細は次号以降でお知らせします。